

FUJIMI

in Micro Cosmos

株式会社フジミインコーポレーテッド
株主通信・Vol.17（平成15年12月）
（第52期中間事業報告）



技術を磨き、
心をつなぐ

CLOSE UP

株主の皆様から寄せられた
ご質問にお答えします。

→P3~6

中間連結決算ハイライト

(単位：百万円、百万円未満は切り捨てています。)

	第51期 平成15年3月31日現在	第51期中間期 平成14年9月30日現在	第52期中間期 平成15年9月30日現在
売上高	21,992	11,255	11,745
営業利益	2,177	1,146	1,426
経常利益	2,147	1,147	1,407
中間(当期)純利益	1,086	629	841
総資産	42,167	41,335	41,207
株主資本	34,775	34,513	35,499
一株当たり中間(当期)純利益(円)	68.39	41.26	55.89
一株当たり株主資本(円)	2,307.60	2,293.33	2,359.16
株主資本中間(当期)純利益率(%)	3.1	1.8	2.4
総資産中間(当期)純利益率(%)	2.6	1.5	2.0
株主資本比率(%)	82.5	83.5	86.1
一株当たり配当額 (フジインコーポレーテッド単体)	30.00円	15.00円	16.00円

平成15年度(第52期)中間連結決算のポイント

●CMP(化学的機械的平坦化)スラリーは、超高純度コロイダルシリカタイプの製品が顧客の高評価を得て順調に推移し、ハードディスク向けスラリーについてもパソコン出荷台数の堅調な伸びに加え、デジタルAV機器にもハードディスクドライブが搭載されるなど需要が増加しました。

一方、半導体ウェハー向け製品は、半導体市場は回復しつつあるものの、価格引下げや一部のリサイクル利用の影響から減少しました。水晶向け製品についても、携

帯電話の需要が伸びたものの、部品の小型化・薄型化の影響や単価下落により、売上は減少しました。

●営業経費面では、生産量の増加により売上原価率が前年同期比1.4ポイント改善した結果、営業利益、経常利益はそれぞれ前年同期比24.5%、22.6%の増加となりました。中間純利益は33.7%増の8.4億円となりました。

●株主資本純利益率は、2.4%となりました。

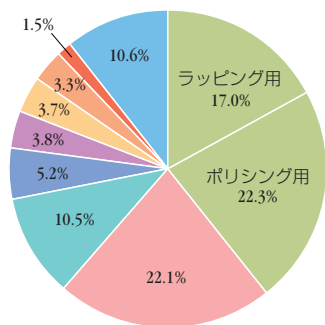
●1株当たり中間純利益は、55円89銭となりました。配当金は、1円増配の1株16円とさせていただきます。

●設備投資額は、6.5億円であり、工場設備更新、研究用設備、検査室改造設備などが主な内容です。

なお、設備投資資金については、自己資金により充当しております。

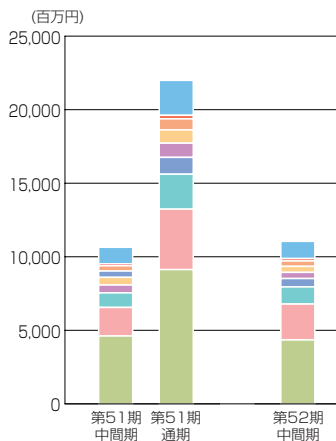
主要用途別の製品売上高の特徴（連結）

第52期中間期
用途別製品売上構成比



- 半導体ウェハー向け製品
- CMPスラリー
- ディスク向け製品
- ワイヤーソー向け砥粒
- 水晶デバイス研磨用
- ガラス研磨用
- 一般ラッピング用
- 溶射材
- その他

用途別製品売上高



※グラフは商品を含めない自社製品
のみの売上高です。

半導体ウェハー向け製品

パソコンを中心に、OA機器やAV製品など、電子産業関連機器類の心臓部に使用されている半導体素子。この半導体素子を製造するには、シリコンウェハーに代表される半導体基盤を高精度に鏡面研磨しなければなりません。フジミのラッピング材、ポリシング材はこの分野で高いマーケットシェアを誇っています。

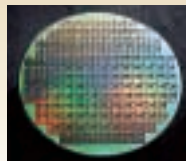


売上高の特徴

パソコンや携帯電話の出荷が当初の予想を上回り半導体市場は回復色を強めました。研磨材の単価下落や一部に廃砥粒のリサイクル使用の動きから、当社の半導体ウェハー向け製品の需要は伸び悩みました。この結果、半導体ウェハー向け製品（ラッピング用の「FO」やポリシング用の「GLANZOX（グランゾックス）」の売上高は43.4億円（前年同期比5.8%減）となりました。

CMPスラリー

半導体の集積度を上げるために半導体チップ上の多層配線の重要性が高まり、この多層化のための必須技術として実用されているのがCMP（化学的機械的平坦化）。フジミのもつ長年にわたるシリコンウェハー用のファイナルポリシング材開発ノウハウが応用展開可能な事業で、高成長が期待される分野です。



売上高の特徴

電子機器の高性能化・小型化は、半導体のさらなる高集積化を必要とし、デザインルールの微細化に伴うチップシュリンク、さらには多層配線化の流れを生み出しています。当社のCMPスラリーは次世代金属配線材料である銅、バリヤメタルなどの配線材料や層間絶縁膜を効率よく加工できる研磨材として認められ、高純度コロイダルシリカやフェムドシリカを主原料としたCMPスラリー「PLANERLITE（プレナライト）」は、国内外のデバイスメーカーへの採用が進みました。この結果、CMPの売上高は24.3億円（前年同期比25.6%増）となりました。

ディスク向け製品

パソコンの高機能化に伴い、プログラムやデータの高速読み出しが可能な小型・大容量メモリーのハードディスクが注目を集めています。このため、ディスク研磨についても、より高精度な水準が要求されるようになりました。フジミはこの分野でも世界的に高い評価を得ています。



売上高の特徴

パソコン市場はIT投資促進税制などを背景に法人向けが回復し、これまで先送りされていたパソコンのリプレースや新規需要の立ち上がりから、パソコンの出荷台数は好調な伸びを示しました。またHDD搭載デジタル家電製品などの非コンピューター向け出荷が急速に拡大するなど、HDD市場は前年のマイナス成長から一転して高成長となりました。こうした環境を背景に当社のディスク向け製品の売上高は11.6億円（前年同期比17.7%増）となりました。

ワイヤーソー向け砥粒以下その他売上高の特徴

ワイヤーソー向け砥粒は、省資源や環境負荷低減を目的とした太陽光エネルギーの活用が進んだことから太陽電池向けが好調に推移し、売上高は5.7億円（前年同期比9.2%増）となりました。水晶業界は緩やかながら回復基調に入りましたが、水晶デバイスの小型化による消耗材の使用量減や単価の下落により、水晶デバイス研磨用の売上高は4.1億円（前年同期比21.7%減）となりました。溶射材は、環境問題への配慮から既存用途のみならず、新分野でのユーザーの新規採用が順調に進み、売上高は1.6億円（前年同期比88.2%増）となりました。

特集：株主の皆様から寄せられたご質問にお答えします

株主通信第16号のアンケートでは、700名の株主様からご回答をいただきました。今号では、その中から代表的なご質問を選んでお答えさせていただきます。

Q₁ 半導体市況の変動がフジミの業績に与える影響はどの程度でしょうか？

A₁ 当社の売上高の4割以上が半導体ウェハー*向けであり、かつシェアが高いことから、世界の半導体出荷動向が当社の売上に影響を与えることとなります。しかしながら、半導体デバイス*の高集積化とともに、近年、CMP*プロセスが急速に進み半導体市場の伸び以上にCMP市場が拡大しています。

当社は、このCMP市場の重要性を認識し、経営資源を集中的に投下して先端技術をリードすることにより市場での優位性を高め、シリコンサイクル*の影響を受けにくい企業体質を構築してまいります。また、半導体市場以外では、ハードディスクがビデオレコーダーなどのデジタル家電にも搭載される動きが顕著化しており、新規事業分野である溶射材も着実に売上を伸ばしていますので、今後とも収益の安定化を図ってまいります。

●半導体ウェハー：ICチップの製造に使われる半導体でできた薄い基板。シリコン製のものが多く、これを特に「シリコンウェハー」と呼ぶ。ウェハーは、原料の物質をインゴットと呼ばれる直径120～200mm程度の円柱状に結晶成長させ、0.5～1.5mm程度に薄くスライスして作製した円盤状のもの。

●半導体デバイス：IC(集積回路)、トランジスタ、ダイオードなどの半導体電子回路部品の総称名で、単に「デバイス」と呼ぶこともある。ここでは半導体を搭載した超小型電子部品・電子装置をさす。情報を記憶するメモリやコンピュータの頭脳にあたる論理回路(MPU)、これらをチップ(半導体集積回路(IC)の総称)1個で実現したシステムLSIなどが代表的。

●CMP(化学的機械的平坦化)：配線の新構造、多層配線(配線を縦方向に複数積み上げる)において、電子回路の表面の凹凸を平坦化する技術。砥粒を用いた機械的研磨と化学作用を複合させたポリッシングで、主な加工対象には配線や層間絶縁膜がある。

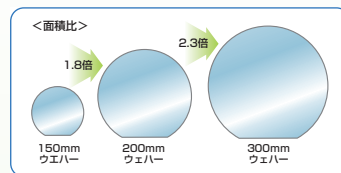
●シリコンサイクル：半導体業界の景気サイクルのことで、過去40年近くにわたって4年ごとに浮き沈みを繰り返している。半導体産業は中長期的には高い伸び率を維持しているが、製品の世代交代の時期に急激な需給のアンバランスが発生し、好況と不況をほぼ一定のサイクルで繰り返している。

Q₂ 大手化学メーカーがCMPに参入とのことで、どのような対応策を考えていますか？また、銅配線に対する研究開発の進捗状況は？

A₂ もともとCMPスラリー市場では、米国のキャボット社が最大手で市場を握っていましたが、大手半導体材料メーカーが相次いで市場に参入し、現在では30社以上の会社がCMPスラリーを生産していると言われております。当社は、独自の超高純度コロイダルシリカ*をベースとしたスラリーを開発して市場参入を果たし、さらには業界で主流であるフュームドシリカ*タイプのスラリーも製品化することにより順調に売上を拡大、業界第2位の約10%の市場シェアを獲得しました。回路線幅130nm*まではフュームドシリカタイプのCMPスラリーで十分に対応が可能であることから、まず、このタイプ of CMPスラリーで顧客に食い込み、一方で利益率の高い独自製品である高品質な高純度コロイダルシリカタイプのスラリーを紹介しながら置き換えを図っていく戦略をとっています。今後、回路線幅が65～90nmレベルに移行し、またそれに伴い銅配線*が主流となった場合、この高純度コロイダルシリカへのシフトが加速するものと考えています。その主な理由としては ①高純度であるため、金属イオンが少なく研磨対象物の汚染の心配がない ②マイクロスクラッチ(微細傷)が入りにくい ③分散性に優れ、品質的劣化がなく安定している、などです。今年はCu-CMP元年の年と言われ、今後一番大きな市場拡大が期待されるのは銅配線用(Cu)のCMPスラリーです。フジミ本体では海外メーカー品からの置き換えを進める一方で、米国子会社のフジミコーポレーションでも、Cu-CMPスラリーの本格生産を開始して米

国市場での拡販戦略を推し進めます。当社ではCMPスラリーの市場規模が2007年には年間800億円程度になると予想し、そのうちの20%のシェア、160億円を目指しています。

- コロイダルシリカ**：シリカの微細粒子が水などの溶媒に分散された状態のもの。粒子径は通常10~300nm程度で、コロイド状に分散した状態であるため、コロイダルシリカと呼ばれる。超高純度コロイダルシリカは不純物が少なく、粒子の均一性や分散性に優れ、品質の安定性が高いなどの優位性があり、これを用いたフジミのシリコンウェハのファイナルポリシング材はトップシェアを誇る。競争力あるCMPスラリー原料としても高評価。
- フュームドシリカ**：四塩化珪素を酸水素炎中で燃焼して得られるシリカ（二酸化珪素）微粒子。原料、水素、酸素の供給速度や燃焼温度を調節することで、粒子径をコントロールすることができる。比較的安価で高純度であるため、半導体デバイス用のCMPに幅広く使用されている。
- nm**：ナノメートル。1ナノメートルは10億分の1メートル。
- 銅配線**：半導体上のトランジスタ（増幅機能を持った半導体素子）同士を銅による配線で接続する技術。従来のアルミニウム配線と比べて伝導抵抗が少なく、より高速で駆動するチップを製造できる



ング材は、一部グラインダー*への置き換わりで需要が鈍化することが懸念されますが、主力のポリシング材は、研磨精度の高まりから増加することが見込まれるため、研磨材全体の需要は拡大傾向で推移するものと予想しています。

- 300mmウェハ**：ウェハの口径（直径）が12インチ（300mm）のもの。業界では、半導体生産の効率化とコスト削減のため、ウェハの大口径化が進んでいる。現在主流の8インチ（200mm）ウェハから採れる半導体チップの数に比べ約2.5倍のチップが生産できる。
- グラインダー**：固定研削砥石をいう。

Q4 インテル社から受賞したPQS賞の効果は？

A4 CMPスラリーは2002年、2003年と2年連続でインテル社の「プリファード・クォリティー・サプライヤー（PQS）」賞*を受賞しており、競合相手に対して、商品開発力や品質面において差別化を図る重要なポイントとなっております。今回のPQS賞は、CMPスラリーに限らず、フジミの技術力の高さを示すものであり、今後とも、こうした良い評価を維持し、技術力を高めるよう一層努力してまいります。



- プリファード・クォリティー・サプライヤー（PQS）賞**：インテル社の原材料供給者継続改善プログラムに貢献した企業に贈られる。

Q5 海外事業展開の今後の方針は？

A5 当社の海外子会社は、フジミアメリカ、フジミコーポレーションおよびフジミマイクロテクノロジーの3社でありましたが、2003年7月に米国子会社のフジミコーポレーションとフジミアメリカの2社を合併させました。また、本年秋には新たに欧州の販売拠点としてフジミヨーロッパ

Q3 300mmウェハ*ライン投入への対応と見込みは？

A3 半導体メーカーでは200mmウェハに対し面積比で約2.3倍となり生産効率が大幅に高まることから300mmウェハラインの投入を積極化しております。国際半導体製造装置材料協会（SEMI）によるシリコンウェハ出荷面積予測では、300mmウェハの全出荷面積に占める割合は2003年の8.0%から2004年は12.8%に拡大し、2006年には20.4%に達する見込みです。一方、300mmウェハでは、高精度・高密度を実現するためバックポリシング（裏面研磨）工程が導入されることなどから、1次研磨、2次研磨でも当社のポリシング材を使用するケースが増えてきます。新たな300mmウェハラインの投入の際にラッピ

(イギリス)とフジミヨーロッパ(ドイツ)を設立いたしました。また、近年成長著しい台湾、中国市場においても現地駐在員を置くとともに代理店を通じ迅速な対応を図っております。

Q6 新規事業本部の具体的な取り組みを教えてください。

A6 今年の機構改革により新たに『新規事業本部』を設け、その下に『戦略事業部』、『CMP事業部』、『溶射材事業部』を配し、組織の役割の明確化と部門ごとの数値目標の設定を行いました。今後の中長期的な収益拡大を図るためには、CMPスラリーのような新しい柱となる事業を立ち上げる必要があります。『戦略事業部』は当社のコア技術である『パウダーテクノロジー』をキーワードとする微粉技術をベースに新規用途を開拓し、例えば内部留保資金を活用したM&A*などの選択肢も積極的に検討し、事業領域の拡大を図ってまいります。

●M&A：企業の合併・買収。

Q7 ISO14001を取得していますが、具体的にはどのような活動をしているのでしょうか？

A7 平成12年3月24日付で国際標準化機構 [ISO] が定める環境マネジメントの国際規格である「ISO14001」の認証を取得いたしました。まだまだ十分な効果を上げているとはいえません。しかし、環境問題に対する従業員の意識が向上したこと、ゴミの排出低減やリサイクル資源への活用、紙類の節約、排出汚泥の再資源化の推進など、確かな効果が出てきております。また、積極的に容器のリユース・リサイクルを顧客に提案し、環境に配慮した製品開発も同時に進めております。

当社としては、環境負荷低減を積極的に推進する社会的責

任を自覚し、環境会計の導入や環境報告書の作成を行うべく、本年度から関係部門による検討を開始いたしました。また、従来の品質マネジメントシステムと環境マネジメントシステムを統合した『品質環境マネジメントシステム』を構築し、統一かつ効率的な業務運営と経営改善の拠り所となるよう、新たに「品質環境方針」を設定いたしました。これにより、従業員一同より良い製品づくり、より一層の環境保全に努めてまいります。

Q8 株主優待を検討してはいかがでしょうか？

A8 当社は株主様に対する適正な利益還元を行うことを経営の重要課題と認識し、利益配分については安定的な配当の継続を基本といたしております。また、進展する技術革新に対応し、収益の向上を図るためには生産設備、研究開発等への投資が必要であり、内部留保はこれらに対応した経営基盤の強化ならびに将来の事業展開に役立てたいと考えております。今後とも業績の拡大、公平かつ適切な情報の開示を図り、より皆様にご支持いただける企業を目指して、不断の経営努力をしていく所存であります。株主優待制度につきましては期待されている株主様がおられることも認識いたしておりますが、当社事業の性格上、広く皆様に喜んでいただける優待サービスの選択は非常に困難であり、企業本来の方法による利益還元策を実施していくことを心がけたいと存じます。

Q9 知名度が低いように思われますが、IRの取り組みについて教えてください。

A9 IRにつきましては、当社は自主的かつ積極的な企業情報開示活動と位置付け、公平かつ迅速に各種の活動を行っております。広く個人株主の皆様当社を分りやすく理解していただけるようホームページの内容も工夫いたして

おります。また事業報告書として年に2回発行しております「株主通信」は毎回、見る立場・読む立場になった誌面づくりに努め、広く株主の皆様からご意見をいただいているものでございます。その他「Financial Review」や「ビジネスレポート」といったIRツールの制作や、決算説明会、スモールグループミーティングといったIRイベントを実施いたしております。また、株主の皆様、あるいは株式市場へ影響のあると思われる制度的情報開示が必要な重要事実については、適時適切な開示を行っております。また、今回の株主通信の「FUJIMI News」でご紹介しましたように、個人向けIRフェアなどが開催される折には積極的に参加したいと考えております。



Q10 東証上場についてどのように考えていますか。

A10 平成7年4月に店頭登録をし、今年で8年が経過いたしました。株式公開以来収益基盤の強化に努めてきた結果、株主の皆様へ安定的な配当ができる財務状況になったと思います。

東京証券取引所はわが国を代表する証券取引所であり、幅広い投資家層が参加している市場ですので、そこに上場することは企業にとっても、株主の皆様にとっても魅力的なことと認識しています。

当社としましては、東証上場にふさわしい会社であるか今一度社内体制を見つめ直し、名実ともに株主の皆様の期待に応えられる企業体質構築のため東証上場も視野に入れ、役社員一同努力していきたいと考えています。今後とも株主の皆様の温かいご支援をお願いいたします。

株主の皆様へ

● 市場回復の兆し

当上半期の事業環境は、引き続き厳しい価格競争が進行する中、パソコンや携帯電話の出荷が期初の予想を上回り、デジタルカメラやDVD機器などのデジタル機器も好調な売れ行きを示すなど、一部に市場回復の兆しが見られました。

このような状況を受け、当上半期の当社売上高は、前年同期に比べ増加しました。

CMPスラリーは、超高純度コロイダルシリカタイプの製品が顧客の高評価を得て順調に売上を伸ばし、収益の牽引役を果たしました。ハードディスク向けスラリーについてもパソコン出荷台数の堅調な伸びに加え、デジタルAV機器にもHDDが搭載されるなど需要が増加し、アルミディスク用スラリーを中心に増加しました。また、省資源や環境負荷低減のニーズから太陽光エネルギーの活用が進展し、当社も新規に需要開拓を進めてまいりました結果、太陽電池向け製品の売上が大幅に増加しました。

一方、半導体ウェハー向け製品は、半導体市場が回復しつつあるものの、単価の下落や一部にリサイクルの動きが出ていることから売上は減少しました。

新規事業の溶射材は、事業部体制のもと開発・製造・営業が一体となって市場開拓を進め、売上を大きく伸ばすことができました。

● 強いフジミをつくるために

業績の回復とともに、当社株価もようやく上向きつつあります。しかし、業績はまだまだピーク時にほど遠いのも実状です。株価は企業価値を映すものでありますから、筋肉質で強いフジミを目指して今一度社内体制を強化し、共通の目標に向かうよう努力いたしております。

当期は、年度のスローガンとして“革新への挑戦”を掲げるとともに、ROE(株主資本純利益率)5.0%以上の達成を目標にしています。ROEについては、月次ベースで全社に数字を公表していますが、これまでのところ5.0%(年率換算)を下回る月もあり、予断の許さぬ状況が続いています。

当社の現状は、出荷数量の増加を達成しても、価格競争や値下げ圧力により、そのまま売上高の増加が見込めるわけではありません。それだけにROE 5.0%達成には、売上計画の達成に加え、製造原価や販管費の低減に向けた取り組みが極めて重要となっています。

下期の取り組みの一つに、稲沢工場における生産価値改善活動の導入を行いました。これは稲沢工場における従業員一人当たりの生産性を30%向上させようというものです。当然ながらこれまでの仕組みややり方を前提にしては目標の到達はありえません。一人ひとりの意識や行動をガラリと変えることが必要です。

今、フジミにとって必要なのは全く新しい発想です。日本のモノづくりは、桁外れの品質向上に向けた継続的な改善なしに生き残りの道はない、と言われていています。

生産性向上とROEの目標数値達成は、どのような厳しい経営環境の中でも利益の出せる体質づくりを実現する試金石です。やり遂げなければならぬ試練として、全力をあげていきます。

● 株主の皆様へ

当上半期につきましては、前年同期比で増収増益を達成することができ、年間計画においても、ほぼ

達成の見通しが出てまいりました。そこで株主様への利益還元策として今中間期の1株当たり配当金を16円(前中間期比1円の増配)とする旨、決議いたしました。年間配当金につきましては、1株につき32円(前期比2円の増配)を予定いたしております。

エクセレントカンパニーの条件の一つは、ROE10%以上の達成です。フジミは、2007年3月期までにこの目標に到達したいと考えています。

こうした目標は、当社のみが利益を上げるのではなく、当社の先端技術を通してユーザーのより良い製品づくりに貢献し、株主様をはじめ、お客様、従業員、地域社会の皆様と喜びや感動を共有することにより達成されます。引き続き、私たちの活動にご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成15年12月
代表取締役社長



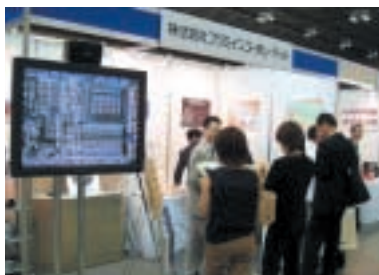
代表取締役社長 越山 彰

越山 彰

“技術を磨き、心をつなぐ” 新コーポレートスローガン決まる！

技術の進化とともに競争がグローバル化し、ますます変化のスピードが加速している事業環境の中で、研究開発型企業であるフジミは、コア技術をさらに高め、先端技術を磨くことにより世界をリードします。

また、先端技術を通してユーザーのより良い製品づくりに貢献し、満足度と信頼を高めることで、ユーザー、最終製品消費者、仕入先、従業員等の心をつなぎ、世界の人々の生活を豊かにします、という思いが本スローガンに込められています。



フジミブースにおけるお客様対応風景

個人投資家向けIR展示会に参加

9月7日(日)・8日(月)の2日間、名古屋中小企業振興会館において、「東海3県資産管理フェア2003」が初めて開催されました。当フェアは愛知万博の正式協賛イベントで個人投資家向けに行われるIR(インベスター・リレーションズ：投資家向け広報)の大型イベントであり、東海3県の有力企業50社以上とともに、当社も参加いたしました。

フジミのブースには400名を超える個人投資家が訪れ、「こんなに素晴らしい技術を持った会社が地元にもあったのですね」と驚かれる場面もありました。あらためて投資家向けIRと、PRの必要性を痛感いたしました。

フジミヨーロッパ設立

半導体ウェハー、ディスク、CMP向け研磨材および鏡面仕上材等の欧州市場における需要拡大に対応し、当社製品の拡販戦略を推進するため2004年1月1日の営業活動開始に向け、販売子会社としてイギリスにFUJIMI Europe Limitedを、ドイツにFUJIMI Europe GmbHを設立しました。これにより、名実ともに国内、北米、アジア、欧州と真にグローバルな販売体制が確立され、業容拡大を図ってまいります。



出展ブースのバース画

セミコン・ジャパン2003に出展

半導体業界に景気回復の兆しが見られることから、今年も「New Challenges!! 翔たけ技術、広がる未来」のスローガンの下、12月3日(水)～5日(金)の3日間、セミコン・ジャパン2003が幕張メッセ(千葉県)で盛大に開催されました。その参加企業は、世界25カ国、1,400社に及び、当社は、半導体チップの多層配線のニーズ拡大に伴い、好調に売上を伸ばすCMPスラリーを中心に、新製品などの紹介を行いました。

中間連結貸借対照表

(単位：百万円、百万円未満は切り捨てています。)

流動資産

長期預金への振替により現預金が減少し、**流動資産**は前期末比14.8億円減少しました。

固定資産

当中間期の**設備投資**は、各務原工場設備および各務東町工場設備などにより6.5億円となりました。減価償却費が9.8億円となり**有形固定資産**は前期末比3.3億円の減少となりました。**無形固定資産**は償却が進み、0.3億円減少しました。**投資その他の資産**は、長期預金への振替を主な要因として9.0億円増加しました。

負債

流動負債は、前期末比12.7億円減少しました。これは未払法人税および未払金の減少によるものです。**固定負債**は、役員退職引当金の取崩しにより4.2億円の減少となりました。

株主資本

利益の内部留保により、**株主資本**は前期末比7.2億円増加しました。**株主資本比率**は3.6ポイント増の86.1%となりました。

	第51期 平成15年3月31日現在	第51期中間期 平成14年9月30日現在	第52期中間期 平成15年9月30日現在
資産の部			
流動資産	23,944	23,023	22,457
現金及び預金	13,291	12,184	11,239
受取手形及び売掛金	6,173	6,752	6,896
棚卸資産	3,384	3,047	2,988
短期貸付金	1	6	1
その他流動資産	1,126	1,038	1,346
(貸倒引当金)	△ 33	△ 5	△ 16
固定資産	18,223	18,311	18,750
有形固定資産	15,614	15,866	15,276
無形固定資産	484	547	447
投資その他の資産	2,124	1,897	3,025
資産合計	42,167	41,335	41,207
負債の部			
流動負債	6,378	5,768	5,108
支払手形及び買掛金	2,629	2,753	2,807
短期借入金	697	915	587
その他流動負債	3,051	2,100	1,713
固定負債	983	1,022	563
退職給付引当金	410	416	426
その他	573	605	136
負債合計	7,362	6,791	5,672
少数株主持分			
少数株主持分	29	29	36
資本の部			
資本金	4,753	4,753	4,753
資本剰余金	5,038	5,038	5,038
利益剰余金	25,394	25,150	25,959
その他有価証券評価差額金	△ 21	△ 1	117
為替換算調整勘定	378	338	401
自己株式	△ 767	△ 765	△ 770
資本合計	34,775	34,513	35,499
負債及び少数株主持分及び資本合計	42,167	41,335	41,207

中間連結損益計算書

売上高

半導体ウェハー向け製品は、半導体市場が回復しつつあるものの、価格引下げや一部のリサイクル利用から厳しい結果となりましたが、CMPスラリーは、超高純度コロイダルシリカタイプの製品が顧客の高評価を得て順調に売上を伸ばし、収益の牽引役を果たしました。

ハードディスク向けスラリーについてもパソコン出荷台数の堅調な伸びに加え、デジタルAV機器にもハードディスクドライブが搭載されるなど需要が増加してきました。

新規事業の溶射材は、事業部体制のもと開発・製造・販売が一体となって市場開拓を進め、堅調に推移いたしました。

また、商品売上につきましては、設備投資の一部好転により研磨機の売上が寄与し、小幅な増加となりました。その結果、**総売上高**は前期比4.3%の増加となりました。

営業利益

売上の増加により**売上原価率**は1.4ポイント減少しました。**販売費及び一般管理費**のうち、人件費ほか営業経費の削減に努めた結果、**営業利益**は24.5%の増加となりました。

経常利益・当期純利益

営業外損益では、急激な円高の影響を受けましたが、**売上高経常利益率**は1.8ポイント向上し、**経常利益**は22.6%増の14.0億円となりました。その結果、**中間純利益**は8.4億円となりました。また、**株主資本利益率(ROE)**は、前年同期比0.6ポイント増の2.4%となりました。

(単位：百万円、百万円未満は切り捨てています。)

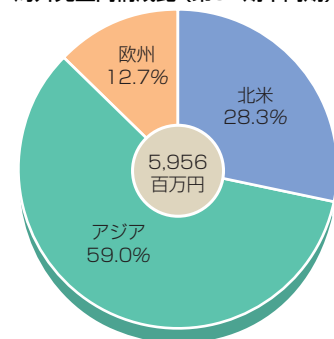
	第51期 平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで	第51期中間期 平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで	第52期中間期 平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで
売上高	21,992	11,255	11,745
売上原価	14,997	7,752	7,923
販売費及び一般管理費	4,816	2,356	2,394
営業利益	2,177	1,146	1,426
営業外収益	88	56	58
受取利息/配当金	51	35	13
その他	36	20	45
営業外費用	118	54	78
支払利息	47	21	16
為替差損	36	19	52
その他	34	14	8
経常利益	2,147	1,147	1,407
特別利益	8	13	5
特別損失	270	11	19
税引前中間(当期)純利益	1,885	1,149	1,393
法人税、住民税及び事業税	1,239	832	327
法人税等調整額	△ 444	△ 314	218
少数株主利益	4	1	6
中間(当期)純利益	1,086	629	841

海外売上高

(百万円 %)

	第51期中間期	第52期中間期
海外売上高	5,784	5,956
(連結売上高)	(11,255)	(11,745)
海外売上高の 連結売上高に 占める割合	51.4	50.7

海外売上高構成比(第52期中間期)



* 各区分に属する地域の内訳は次のとおりです。

北 米: 米国、カナダ
 アジア: 台湾、タイ、シンガポール、マレーシア、
 韓国、中国
 欧 州: イギリス、デンマーク、ドイツ

中間連結キャッシュフロー計算書

(単位：百万円、百万円未満は切り捨てています。)

営業活動によるキャッシュフロー

営業活動の結果得られた資金は、5.1億円(前年同期比84.3%減)となりました。主な要因としては、税金等調整前中間純利益13.9億円(同21.3%増)および減価償却費9.8億円(同14.3%減)等です。また、主な減少要因としては、役員退職引当金の取崩しによる減少4.1億円、法人税等の支払12.0億円(同127.8%増)等によるものです。

投資活動によるキャッシュフロー

投資活動の結果使用した資金は、17.0億円(前年同期は1.6億円の増加)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が9.2億円(前年同期比574.6%増)と、定期預金の預入(8.0億円)による支出です。

財務活動によるキャッシュフロー

財務活動の結果使用した資金は、3.3億円(前年同期比74.9%減)となりました。これは主に、配当金の支払(2.2億円)によるものです。

現金及び現金同等物は、税金等調整前中間純利益が13.9億円となりましたが、法人税等の支払額12.0億円、有形固定資産の取得による支出9.2億円および定期預金の預入による支出8.0億円があったことにより、前連結会計年度末より15.2億円減少しました。この結果、資金残高は119.6億円(前年同期比3.4%減)となりました。

	第51期 平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで	第51期中間期 平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで	第52期中間期 平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで
営業活動によるキャッシュフロー	5,871	3,268	512
税金等調整前中間(当期)純利益	1,885	1,149	1,393
減価償却費	2,297	1,149	984
連結調整勘定償却額	163	81	—
売上債権増減額	△ 279	△ 897	△ 773
仕入債務増減額	414	565	180
棚卸資産増減額	△ 105	239	389
その他	1,623	957	△ 447
小計	5,999	3,244	1,726
利息及び配当金の受取額	30	35	13
法人税等の支払額	△ 111	9	△ 1,209
その他	△ 47	△ 21	△ 16
投資活動によるキャッシュフロー	△ 918	161	△ 1,701
定期預金の預入による支出	△ 300	—	△ 800
有価証券の取得による支出	△ 99	△ 99	—
有価証券の売却による収入	581	512	—
有形固定資産取得による支出	△ 706	△ 137	△ 924
その他	△ 393	△ 113	23
財務活動によるキャッシュフロー	△ 1,782	△ 1,338	△ 335
短期借入金の純増加(減少)額	△ 572	△ 344	△ 107
自己株式の取得による支出	△ 766	△ 763	△ 2
配当金の支払	△ 443	△ 230	△ 225
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 82	△ 110	△ 1
現金及び現金同等物の増加(減少)額	3,089	1,982	△ 1,525
現金及び現金同等物期首残高	10,402	10,402	13,491
現金及び現金同等物期末残高	13,491	12,384	11,966

中間単体決算の概要

(単位：百万円、百万円未満は切り捨てています。)

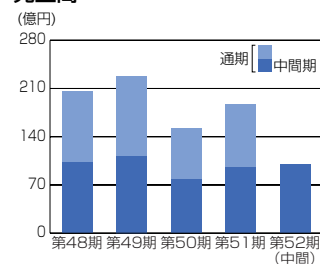
◇中間損益計算書

	第51期 平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで	第51期中間期 平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで	第52期中間期 平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで
売上高	18,684	9,522	10,038
売上原価	12,762	6,490	6,827
販売費及び一般管理費	3,774	1,851	1,927
営業利益	2,147	1,179	1,283
営業外収益	134	78	67
営業外費用	29	7	48
経常利益	2,252	1,249	1,302
特別損益	△ 262	1	△ 13
税引前中間(当期)純利益	1,989	1,251	1,289
法人税、住民税及び事業税	1,197	828	283
法人税等調整額	△ 413	△ 298	239
中間(当期)純利益	1,205	720	765
前期繰越利益	395	395	1,100
中間配当額	225	—	—
中間(当期)未処分利益金	1,375	1,116	1,866

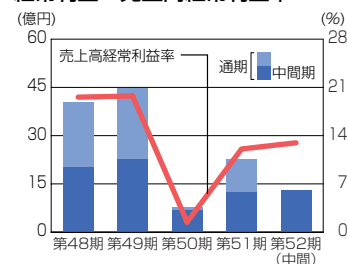
◇中間貸借対照表

	第51期 平成15年3月31日現在	第51期中間期 平成14年9月30日現在	第52期中間期 平成15年9月30日現在
資産の部			
流動資産	21,374	20,365	19,511
固定資産	18,698	18,780	19,711
資産合計	40,073	39,145	39,222
負債・資本の部			
流動負債	5,401	4,707	4,322
固定負債	940	942	541
負債合計	6,342	5,650	4,864
資本金	4,753	4,753	4,753
資本剰余金	5,038	5,038	5,038
利益剰余金	24,728	24,469	25,218
その他有価証券評価差額金	△ 21	△ 1	117
自己株式	△ 767	△ 765	△ 770
資本合計	33,731	33,494	34,357
負債及び資本合計	40,073	39,145	39,222

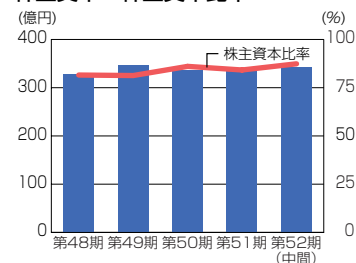
売上高



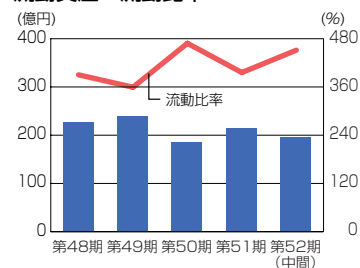
経常利益・売上高経常利益率



株主資本・株主資本比率

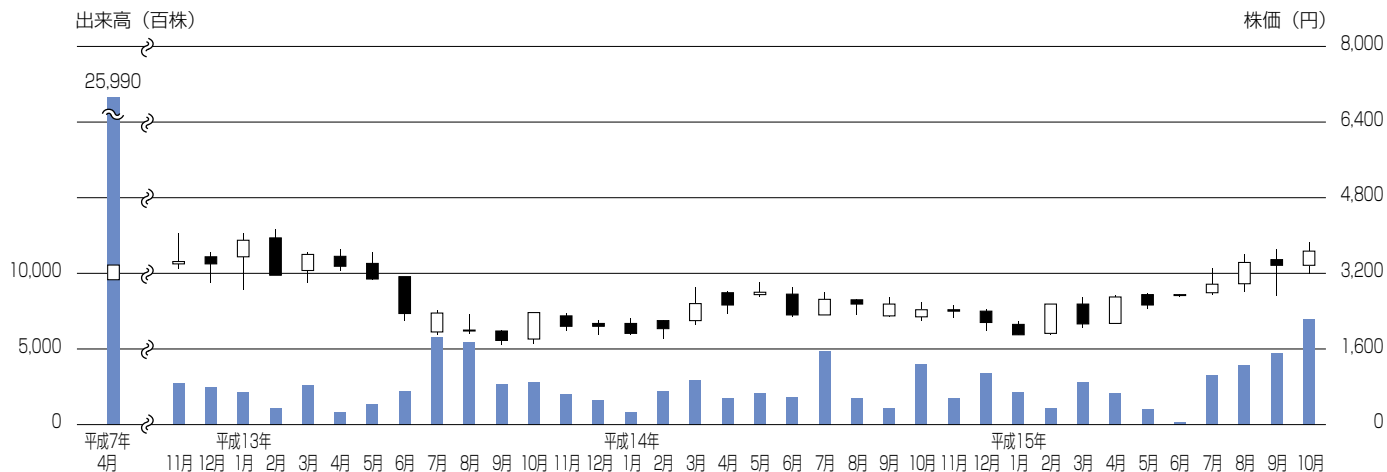


流動資産・流動比率



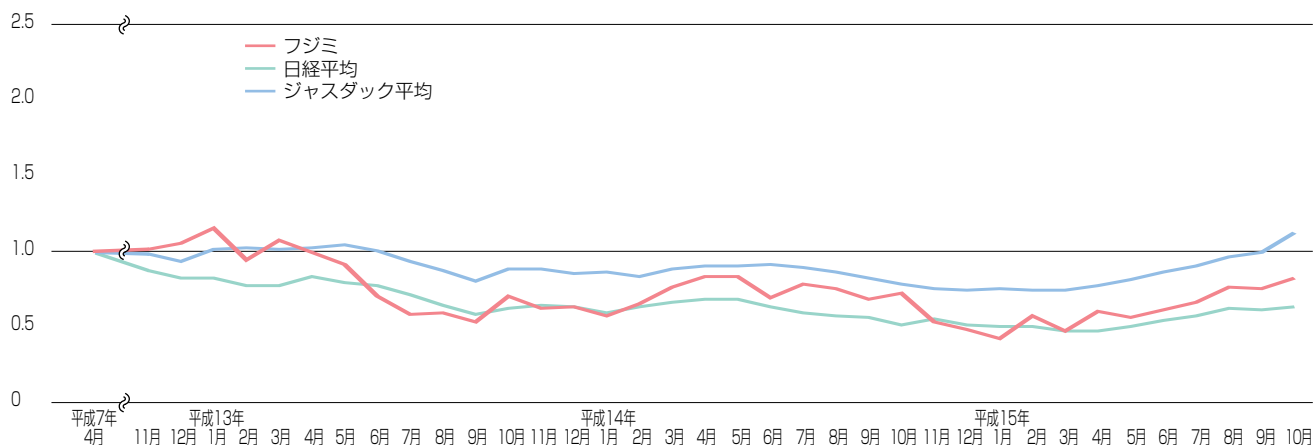
* 第48～51期は年度末の数値、第52期は中間期末の数値となっています。

株価および出来高の推移



* 株価データは、株式分割を過年度に遡及して調整した修正株価を使用しています。

株価の推移比較（フジミ・日経平均・ジャスダック平均）



* 毎月の終値を、フジミが店頭公開した平成7年4月の株価（4月の終値）を1として指数化しています。フジミの株価が市場全体の動きに比べて、どのように変動しているかを示しています。

会社データ (平成15年9月30日現在)

商号

株式会社フジインコーポレーテッド

証券コード

5384

本社所在地

愛知県西春日井郡西枇杷島町地領2丁目1番地の1
TEL. 052-503-8181 (代表)

設立年月日

昭和28年3月20日

資本金

4,753,438,500円

代表者

代表取締役社長 越山 彰

従業員

362名

役員

代表取締役社長	越山 彰
常務取締役	永利 正
取締役	久保 昌昭
取締役	児玉 一志
取締役	中川 博行
取締役	松島 伸男
取締役	関 敬史
常勤監査役	藤本 俊之
常勤監査役	野田 純孝
監査役	池本 富春
監査役	鮎澤 多俊

株主メモ (平成15年9月30日現在)

株式の状況

株式数	
会社が発行する株式の総数	39,747,300株
発行済株式総数	15,349,750株
株主数	4,913名

大株主

株主名	持株数	持株比率
越山 勇	1,956,155株	12.7%
野田 純孝	1,420,000	9.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	690,200	4.5
株式会社りそな銀行	595,892	3.9
有限会社コマ	577,180	3.8
越山 彰	570,700	3.7
UFJ信託銀行株式会社(信託勘定A口)	453,800	3.0
日本生命保険相互会社	389,940	2.5
株式会社UFJ銀行	326,025	2.1
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	314,049	2.0

決算期	3月31日
基準日	3月31日
1単元の株式の数	100株
公告掲載新聞	日本経済新聞
名義書換代理人	東京都中央区日本橋茅場町 1丁目2番4号 日本証券代行株式会社 本店および各支店
同事務取扱場所	名古屋市中区栄 3丁目3番17号 名古屋証券会館5階
同取次所	日本証券代行株式会社 名古屋支店 本店および各支店

技術を磨き、心をつなぐ

FUJIMI

FUJIMI INCORPORATED



ホームページアドレス：<http://www.fujimiinc.co.jp>

株式会社フジミインコーポレーテッド

お問い合わせ先：経営企画室企画課
TEL：052-503-8181（代表）